

「読書の秋」になりました。コロナウイルス感染予防のため、親子ともに室内で過ごす時間が長かったと思います。今回は、室内でできる「読書」についてちょっと考えてみましょう。



インターネットで「読書」の効果について調べてみると、○ストレスが解消される ○想像力が磨かれる ○脳が活性化する ○仕事や日常のヒントをもらえる ○視野が広がる ○教養が磨かれる ○読解力が高まる ○知識が増える ○ボキャブラリーが増える、などが書かれています。

松戸市でここ数年家庭教育の講演をお願いしている脳科学者川島隆太教授も次のような効果について述べています。

**「脳が活性化する効果」**

本の黙読により、視覚情報処理する「後頭葉」や思考・創造性に関わる「前頭前野」など、脳の様々な部位が活性化します。また、音読も脳を活性化させ、学習効果を2～3割向上させることが期待できます...



東北大学  
川島隆太教授

『文部科学省 家庭教育手帳』でも、次のように読書についてふれています。

**いい本に出会うことは、いい人に出会うことに似ている**

読書は、想像力や考える習慣を身につけ、豊かな感性や情操、思いやりの心をはぐくむことができます。ですから、テレビや漫画が好きの子にも、本を読む時間をもつように習慣づけたいものです。

そのためにも、食事の時間のように「読書の時間」を設ける、親子で図書館に行く、親も一緒に本を読むなど工夫し、子どもが読書の楽しさと出会えるきっかけをつくりましょう。

また、読書を通じて子どもが感じたり考えたりしたことに耳を傾け、話し合うなど、親子の会話を増やし深める契機として読書を活用することも大切です。

**感動する本との出会いを大切に**



では、どんな本がいいかということになりますが、発達段階によって変わってくるのは当然のことです。

ちなみに、第2回『小学生がえらぶ！“こどもの本”総選挙』では、「おもしろ！進化のふしぎ ざんねんないきもの辞典」、「あるかしら書店」、「りんごかもしれない」、「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」、「おもしろ！進化のふしぎ 続ざんねんないきもの辞典」がベスト5ということです。

また、「ちば 本 100 選」と検索すると「図書館司書が選んだ子どもに読んでほしい本 100 選」を見ることができます。お子さんに与える本に迷ったときは参考にするといいでしょう。

最後に、「みんなで取り組む千葉の教育 友だち 100 冊できるかな？」に書いてあるふれあい読書「家読（うちどく）」のススメを紹介します。

**ふれあい読書「家読（うちどく）」のススメ**

家庭でのふれあい読書を意味する「家読（うちどく）」は、読書を通して、家族の絆やコミュニケーションを深めることを目的とし、方法は自由で、各家庭で本の楽しみ方があります。

- 家族で同じ本を読み、感想を話す
- 家族で絵本を読みながら楽しい時間を過ごす
- 大人が子どもに本を読み聞かせる
- 家族で読書の日や読書タイムを設ける
- 子どもが大人や家族に本を読む
- 大人が子どもに読書の思い出を語る など

最近、活字離れが進んでいるとよく耳にします。テレビやパソコンで迫力のある映像を観た方が面白いのかもしれませんが、時々、活字を通して自分の頭で考えた映像も楽しんでほしいものです。保護者の皆様が小さいときに読んで感動した本、おもしろかった本、ワクワクドキドキした本を子どもに与えるなどして、子どもが読書をするきっかけをつくってあげることも大切だと思います。

忙しい毎日だと思いますが、「読書を通して家族の楽しい時間をつくる」ということも考えていただければと思います。



※令和2年度幼児家庭教育学級だより3号にも読書について書いてありますので参考にしてください。